『公開臨床研究』

数理モデルを用いた前立腺癌再発動態の検討

【当該研究の意義、目的】

前立腺特異抗原(PSA)の腫瘍マーカーとしての有用性は広く知られており、前立腺癌再発の診断および予後因子の一つとしても有用性が示されている。PSAの使用によって早期診断が可能になり、日本でも健康診断や人間ドックによる早期癌が増加傾向にある。それに伴い前立腺癌の治療法も多様化してきており、それぞれの患者さんに合った治療法の選択がますます必要になってきている。

PSAは、従来一回のPSA値により判断していたが、近年、複数回の採血結果により判定する方法の方が優れていると報告されている。われわれは、PSAの臨床的意義を高めるために、数理モデルを用いてPSAの変化と傾向を検証し、実際に外来等で使用可能な簡略化された数理モデルの確立を本研究の目的とする。

【個人情報の保護】

本研究に関わる関係者は被験者の個人情報保護に最大限の努力を払う。当該医療機関外に情報を提供する際には、匿名化を行い、医療機関外の者が被験者を特定できる情報（氏名、住所、電話番号等）は記載しない。

【研究機関名】

東京厚生年金病院
東京慈恵会医科大学附属病院
東京大学生産技術研究所

【連絡先】

研究内容および個人情報に関する問い合わせ
研究責任医師　　東京厚生年金病院 赤倉功一郎
〒162−8543 東京都新宿区津久戸町5−1
TEL：03-3269-8111 (代表)